

2016年1月22日

第15回 日中韓三カ国会計基準設定主体会議を開催

2015年11月23日に、韓国のソウルにおいて、日本、中国、韓国の会計基準設定主体による第15回日中韓三カ国会計基準設定主体会議が開催されました。本会議には、企業会計基準委員会（ASBJ）の小野行雄委員長、中国財政部会計司及び中国会計準則委員会（CASC）の Yibin Gao 司長、韓国会計基準委員会（KASB）の Jee In Jang 委員長を含む三カ国からの代表者が出席しました。また、香港公認会計士協会の Clement Chan 委員長やマカオ監査人会計士登録委員会の Chi Chung Yung 委員を含む香港及びマカオからの代表者も出席しました。さらに、国際会計基準審議会（IASB）の Ian Mackintosh 副議長、鶯地隆継理事、Chungwoo Suh 理事、Wei-Guo Zhang 理事が出席しました。

2015年の活動報告

日本、中国、韓国の代表者により、各会計基準設定主体の最近の活動状況について紹介されました。ASBJ からは IFRS の任意適用企業の増加、中国からは中国の企業会計基準と IFRS のコンバージェンスの進捗状況、韓国からは調査・教育・国際活動を含む主な活動状況について報告がされました。

特別セッション：韓国における伝統的な簿記の方法

特別セッションとして、高麗大学の Seok Woo Jeong 教授により、韓国における伝統的な簿記の方法である Sa-Gae-Song-Do 法が紹介されました。最も古いと知られている複式簿記（ルカ・パチョーリ、1494年）より Sa-Gae-Song-Do 法が古くから存在していた可能性を示す証拠があるものの、確定的な証拠は未だ発見されていないという説明がされました。また、現代の複式簿記との比較を踏まえ、Sa-Gae-Song-Do 法についても簡単な説明がされました。

テクニカルセッション

排出物価格設定メカニズム

中国の代表者より、中国における最近の排出権取引制度の拡大、アジア・オセアニア会計基準設定主体グループ（AOSSG）における排出物価格設定メカニズムの作業グループにおける取組み、及び、キャップ・アンド・トレード型の排出権取引制度の会計処理に関する中国による提案が説

明されました。次の論点が本会議において議論されました。

- (1) 排出権取引制度から生じる排出枠及び関連する義務の性質及びそれらの測定アプローチを含む会計処理のあり方
- (2) 排出枠付与時点における純損益の認識
- (3) 排出物価格設定メカニズムの会計処理に関する事業活動の役割
- (4) 財務諸表における排出物価格設定メカニズムの表示

日本、中国、韓国は、排出枠付与時点において純損益を認識するべきではなく、また実際の排出量が排出枠と同じである場合、コンプライアンス期間中に純損益を認識するべきでないという点について合意しました。三カ国は、IASB による排出物価格設定メカニズムのプロジェクトに貢献するために、今後も見解を検討し連携することに合意しました。

概念フレームワーク

ASBJ の代表者より、IASB により 2015 年 5 月に公表された公開草案「財務報告に関する概念フレームワーク」に対する予備的な見解について説明がされました。続いて、三カ国の代表者により、次の事項について議論がされました。

- (1) 財務諸表の構成要素
- (2) 測定基礎の選択
- (3) 純損益及びその他の包括利益

議論を通じて、三カ国の代表者により、共通の関心分野が識別され、また IASB による概念フレームワークのレビュー作業に貢献するために、三カ国が協働するべきであると合意されました。

IFRS に対する影響分析

韓国の代表者より、影響分析に係る KASB の全般的なデュー・プロセスについて説明がされました。また、IFRS 第 9 号「金融商品」に対する影響分析について、韓国や他の法域における結果が紹介されました。影響分析の経験を共有した結果、日本、中国、韓国は、影響分析を実施する際に困難な点があることに同意しました。特に、導入前の定量的な分析方法が不足しているた

Press Release

め、アンケート調査など定性的な方法に依拠せざるを得ないこと、こうした調査に対する回答率が低いこと、利用者からの見解を収集することが困難なこと、実証研究のデータが不足していることなどが挙げられました。

おわりに

ASBJ の小野行雄委員長により、次回の会議は、2016 年 10 月後半に日本で開催される予定であることが発表されました。

KASB の Jee In Jang 委員長より、出席者に対して本会議に積極的に参加したことに謝意が示されたほか、重要な議題について深い議論がなされ、本会議が有意義なものであったという旨が示されました。

以 上